

西行法師を感じてほしい

「君待つと」の新古今和歌集からピックアップされた歌の中に西行法師のものがありません。

道の辺に清水流るる柳かげしばしとてこそ立ち止まりつれ

一一八六年、奥州平泉（この地名は芭蕉にも関係あるからね）に行った帰りに恵那に立ち寄り、その水で墨をすり、この歌を詠んだとされています。その水をとった場所が、今公園になっています。「西行硯水（けんすい）公園」と言います。

瑞浪から国道十九号を恵那に向かって走ります。槇ヶ根公園の前を通過し、四、五百メートルほど進みます。恵那市街に車を進めていくと道が緩く右にカーブし、その右側に小さな公園が見えてきます。それが「西行硯水公園」です。このほかにも、恵那には「西行塚」や西行に縁のある史跡が結構ありますからね。

何だか社会の勉強みたいになってしまいましたね。国語にもどします。西行法師は恵那だけではなく、中山道沿いのこの辺りにも来て歌を詠んでいます。

天地の声のとけきはかまど山草木とともに春は来にけり

これも西行法師の歌ですよ。よく見てください。どこかで聞いたことのある言葉が入っていませんか。そうなんです！西行は釜戸と言う地名を入れて歌を詠んでいるのです。

釜戸の中切というところに、中切八幡神社があります。その神社の横に「釜戸発祥の地」があり、その案内板には「平安時代（一一〇〇年頃）にこの洞の巨岩がご飯をたく竈（かまど）に似ていることから、かまどと呼ばれるようになった」と書いてあります。西行法師は、その名前が付いた後、立ち寄ったのですね。さらに、こんな歌も彼は詠んでいます。

夜風のさかひはこころに有明の月吉日吉里をならべて

これもまた聞いたことある地名が出てきたでしょ。そうです、月吉と日吉が出てきます。西行が月吉と日吉の境目辺りに立ち寄った時に夜が明け始めた、そのときの情景を詠んだのだと思われま

す。おまけに「有明」という言葉も見られますよね。日吉の人ならだれもが知っているはず。日吉にこの名前のお店があるよね。店の名前は、西行のこの歌に関係しているかもしれないね。

おまけですが、月吉と日吉という地名は、土岐町桜堂薬師にまつわる話から生まれたということを知っていますか。調べてみるのもおもしろいよ。

もう一つおまけ。西行と芭蕉は生きた時代は違うけど、強いつながりがあります。どうしてでしょうね。授業で勉強してくださいね。



(五月十日分)